

2016年3月15日付ディアリオ・デ・セントロ・アメリカ紙

「日本、オロパ市の教育を支援」

在グアテマラ日本大使及び国際協力NGOワールド・ビジョン・グアテマラ代表は、チキムラ県オロパ市内2集落における2校の小学校建設に関する合意書に署名した。

川原英一在グアテマラ日本大使は、「日本はオロパ市の教育向上及び開発の支援のため、52万8,958ケツァル（約7万米ドル）を供与する。2校の小学校が出来ただけ早く建設され、また、教育問題に対する解決法のひとつとなることを望む。本件引渡し式では子供達と（新たな小学校2校を建設されたことに対する）幸福感を共有出来ることを願っている。」と述べた。

また、川原大使は、「グアテマラにおける日本の支援は子供や若年層の教育に手を差し伸べてきたという点で際だっている。日本はこれまで、グアテマラ全国で307校に上る教育機関の建設に携わってきた。」と説明した。

早魃による影響

ワールド・ビジョン・グアテマラによると、オロパ市はグアテマラ国内において気候変動の影響を最も受けている市のひとつであり、同問題はオロパ市における貧困問題とも関連している。同市における基礎的インフラの欠如は、同市在住の子供達の（社会経済的）発展へと繋がる機会を奪っている。

オロパ市の教員グロリア・ロサレス氏は、「教室がタケ、日干しレンガやトタン板等の建材を用いて建てられた私達の学校は多くのものを必要としている。日本大使館とワールド・ビジョンの支援に感謝致します。」と述べた。

オロパ市の小学校に通う児童の保護者であるペドロ・シトゥル氏は、「自分達のことを気にかけて下さる支援者を歓迎致します。私の息子は、今後この子が（何れかの分野の）専門家になる機会を与えてくれるであろう、より良い環境下にある学校に通うことが出来ます。」と語った。

グアテマラ教育省によると、本案件においては小学校2校で教室計3室、トイレ計8基及び台所計2室が建設され、約60名の児童が新しい学校に通う予定である。